



国立病院機構(NHO)宇都宮病院院内広報誌

# わかあゆ

WAKA-AYU



## 基本理念

私たちは、地域から強く信頼される病院を目指します  
そのために、誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

謹賀新年



20 **冬** 12

第22号

広報誌 / 年4回発行

発行：国立病院機構 宇都宮病院  
発行日：平成 24年 1月 1日  
発行責任者：沼尾 利郎

- 新年のご挨拶 ..... 1
- 宇都宮病院前進プロジェクト ..... 2
- ロサンゼルス留学記 ..... 3
- 第65回 国立病院総合医学会 臨床検査科 ..... 4
- 第65回 国立病院総合医学会 看護部 ..... 4
- 新型MRI装置を導入しました ..... 5
- 福島第一原発事故に伴う住民の  
一時帰宅における医療班派遣 ..... 5
- クリスマスコンサートに寄せて ..... 6
- 重症心身障害病棟クリスマス会 ..... 6

# 新年のご挨拶

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、昨年には社会においても当院においても激動の1年でした。3月の大震災で当院は大きな被害を受けましたが幸いにも患者さんや職員に直接的な健康被害はなく、多くの方から暖かいご支援を受けて5月中旬までには病院機能を回復させることができました。その後には多数の被災者を受け入れたり医療チームを被災地に派遣して、「被災病院」から「支援病院」に立場を変えて活動してきました。一方、3月末には機構本部から病棟更新築の正式な承認があり、病院の方向性や将来計画を明確にする必要性から「宇都宮病院前進プロジェクト」を10月にスタートさせました。病院の理念や使命、運営方針なども新たに作成した次第です。

このように昨年は病院内外で大きな変化があった訳ですが、インフラ（基盤）が整備された後はコンテンツ（中身）の時代です。たとえ建物が新しくなり最新の医療機器が入っても、それを使いこなす優秀な人材がいなければ質の高い医療を提供することはできません。このため、病院全体として系統的な人材育成システムを構築して、チーム医療や地域医療などに多職種協働の体制を確立させたいと考えます。

ところで、昨年末には日光アイスバックスのセルジオ越後さん（シニアディレクター）と大久保選手会長、瀬高副主将の3名の方が当院や岡本特別支援学校へ来られて、患者さんや子供達と交流をしました。アイスバックスは経営的に苦しい時期を乗り越えてきた経験があり、諦めずに困難を克服してきた過程こそがチームの強みであり地域の支えにもなっています。このような事情は数年前の当院と全く同じであり、地域社会における地域スポーツのあり方は私たち医療人にとっても大変参考になりました。

どんなに時代が変わろうとも、私たちがなすべき事は変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの視点に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され職員にとっても働きがいのある病院の実現」です。地域の医療機関や介護・福祉施設との連携をより一層進めながら、地域医療（がん・糖尿病・救急など）と政策医療（重症心身障害・神経難病・結核など）に貢献すべく努力いたしますので、皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。





# 宇都宮病院前進プロジェクトが動いています

事務部長 山浦 康弘

当院には次のような歴史があります。

平成 18 年 9 月、吉武前院長を中心として「宇都宮病院改革プロジェクト」を策定して冊子とし、病院の経営改善を進めました。そして、一年後にはその成果が現れ始め、更に経営向上を図るため「宇都宮病院改革プロジェクト立ち上げから一年」という冊子に、今後の宇都宮病院の課題と展望が記され、私たちの進むべき方向性が示されました。そして、その方向性が基礎となり、再生プランにより継続され平成 22 年度に経常収支率 106.4%という改善が図られました。これは、職員全員が苦しい時代から地道な努力を重ねてきた結果です。そして、沼尾院長を中心に平成 23 年 10 月「宇都宮病院前進プロジェクト」が策定され、42 ページの冊子となり動き出しました。これは、当院の歴史の流れであり、必然性があったのだと思っています。

「前進プロジェクト」の 4 ページには、新しい「病院理念」があります。私たちの意志決定の拠り所です。5 ページには「当院の使命」が明確に示され、目指すべき医療があります。6 ページには院長の 8 つの運営方針、7 ページには副院長の臨床研究部の運営方針、8 ページには診療部長の 10 年後の宇都宮病院を見据えた考えが掲載されています。10 ページには中長期計画（ロードマップ）が、24 ページには病棟新築について、27 ページには平成 24 年度の定数改定案、他のページにも各診療科の運営方針や病院としての考え方など様々な方向性が掲載されています。これから、私たちの会議や委員会では、この前進プロジェクトに書かれたことが議論されていきますし、具体的な活動として動くこととなります。



平成 23 年 12 月 14 日には、病院長が機構本部の医療部と財務部、関東信越ブロック事務所へ前進プロジェクトの説明をし、協力を求めました。医療部では「前進プロジェクト 8 ページの TMS の体制作り」への協力を示してくれました。また、全面更新築の計画を説明した財務部も、考え方について理解を示していただきました。ブロック事務所からは、地域医療連携等について具体的なアドバイスもいただきました。今後も本部企画経営部等への説明も行い、理解を得ながら具体的な計画を実行していくこととなります。

職員の皆さん、前進プロジェクトに記載されたいろいろな計画が、既に実行され現実になってきています。そして、職員の皆さんが手がけ始めた様々な事が、宇都宮病院の歴史を作っていくこととなります。皆さん、時々、「宇都宮病院前進プロジェクト」の冊子を広げ、今何を進めているのか、そして何が実現したのか確かめてみるのも楽しいと思いますよ。

# ロサンゼルス留学記

外科医長 伊藤 知和

平成23年7月9日より8月31日まで、国立病院機構からの派遣で、アメリカ・カリフォルニア州のロサンゼルスにある退役軍人病院に研修留学に行ってきました。

私は一般外科医・呼吸器外科医ですが、褥瘡対策・NST委員会に関与しており、化学療法や緩和医療にも興味があったため、胸部外科、化学療法科(血液内科)、緩和チーム、栄養チーム、創傷チームの5か所をローテーションさせて頂きました。

胸部外科ですが、自分の専門である呼吸器外科の指導医はDr.Cameronお一人でした。とても背が高く、おしゃやれでダンディーでユーモアのある方で、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の役職もあり、VAでの活動日は主に水曜日のみ。朝の合同カンファランスに始まり、手術、外来と忙しい一日となります。ただ彼の活動日が週一日と限られていたので、全期間毎週水曜日は彼に合流させて頂きました。

合同カンファでは、呼吸器内科の研修医のミニレクチャーと相談症例の提示でした。レクチャーではよく、タバコと肺癌の関係やら、人種と発癌の関係やら、多民族国家アメリカならではの討論がなされ、興味深かったです。時々日本の状況など、意見を求められました。

手術は、肺癌で肺動脈浸潤あり全摘術になった症例や、確定診断や病期診断のための縦隔鏡などを見学できました。

外来では、他のスタッフが対応した患者でも、短くとも必ず自ら診察する姿に接し、本当に尊敬に値する指導者でした。

また彼の計らいで、UCLAでの彼の手術や内視鏡治療の見学もでき、3日間UCLA病院にも行きました。ロボット手術による拡大胸腺摘出術も見学でき、アメリカでの最先端医療にも接することができました。

その後2週間の化学療法・血液内科の後回った緩和チームでは、指導医のDr.Lorenzと仲良くなり、飲み連れ出して貰ったり、お宅にも家族とともに招待して頂き、楽しい時間を過ごしました。

栄養チームや創傷ケアチームでは、管理栄養士やWOC看護師の院内での活躍に触れられました。

研修を終えて感じるのですが、日本とアメリカの違いは、やはり教育システムだと思います。確かにアメリカで一人前の医師になるのも、薬剤師、栄養士になるのも、看護師になって認定や専門を取るのも道のりは長いですが、その過程ごとに、教える教わるの関係があり、それがお互いを育てる、といった印象でした。

もちろん自由になる時間もたくさんありました。ちょうど日本の夏休みの時期に当たったため、妻と3歳の長男も同行しましたので、週末は家族でいろいろ観光しました。

近くはGetty美術館やサンタモニカビーチ。ビバリーヒルズにハリウッドもすぐそこ。ショッピングセンターやアウトレットもたくさん有りました。ディズニーランドも近く3回も訪れました。足を延ばしてサンディエゴのレゴランドも行きました。

あっという間の2か月でしたが、異国で家族と過ごせたことも、世界最先端の医療を垣間見れたことも、異国の医療に触れたことも、とても良い経験になりました。

最後にこの機会を与えてくれた機構本部の方々、2か月もの留守を許してくれた病院の関係者の皆様に感謝を申し上げます。



Dr.Cameron 筆者 Fellow



ディズニーランドにて 長男と筆者

## 第65回 国立病院機構総合医学会

## 「腎機能評価」に関する発表

臨床検査科 塩谷 香奈

第65回国立病院機構総合医学会が岡山コンベンションセンター(岡山県)を中心に開催されました。本学会は東日本大震災の多大な被害を受け、災害関連のシンポジウムや支援活動等のポスター展示もみられました。災害を振り返ることは、各病院が今後の災害発生時の体制を考える良い機会となりました。

さて、今回私は「当院における推算糸球体濾過量を用いた腎機能評価について」と題し、臨床検査部門にて発表させていただきました。近年我が国では、慢性腎臓病(CKD)患者が増加しており、早期発見の対策が急務となっております。CKDは脳血管疾患・心血管疾患などの病気を発症しやすいと言われており、日本人の死因の第1位を占め全体の約30%にあたります。2008年日本腎臓病学会は、血中クレアチニン(c<sub>re</sub>)・年齢・性別を用いた簡単な計算式から、推算糸球体濾過量(eGFR)を求め、CKDの判断材料の一つとして用いることを提唱しました。これまでの腎機能評価は、血中クレアチニンや、煩雑な24時間蓄尿(C<sub>cr</sub>)という、患者様の負担が大きい検査方法です。そこで当院におけるeGFRの有用性について検討を行い報告した結果、ベストポスター賞を頂きました。このポスター賞は共同演者である先輩方のご指導、ご協力のお陰です。

また当院では心血管疾患等、動脈硬化症の早期発見のための検査として、血液検査以外に、生理検査室で頸動脈エコー検査や血圧脈波(CAVI・ABI)検査も行われています。皆様も一度検査を受けてみてはいかがでしょうか？

学会終了後は岡山城、倉敷、日本三大名園である後樂園にも足を運び、日本の歴史・文化に触れて、心と身体をリフレッシュしてきました。

今後も医療従事者の一人として良質な医療提供を行えるように精進してまいります。



## 冷水注入における排便コントロールに関する発表

東6病棟 看護師 椎野 貴弘

2011年10月7日(金)・8日(土)の2日間、岡山県岡山市で第65回国立病院総合医学会が開催されました。本学会のテーマは、『明日への医療のために～チャレンジそしてチェンジ～』です。また、会場内には、「東日本大震災における国立病院機構の支援活動」のパネル展示がありました。とても大きな災害・被災を経験し、当たり前の日々感謝し、出会いを大切にしていきたいと思いました。

私達の発表は、10月8日(土)午後の部に「冷水注入における排便コントロール」というテーマで行いました。初めての学会発表の為、とても緊張しました。同じセッションの他の発表者はほとんど医師でしたが、その中で発表出来たことはとても良い経験でした。排便コントロールについては、多くの施設が問題として取り上げており患者様の便秘解消の参考になるものも多くありました。1つの問題に対して様々な視点から解決策を探り、患者様にあった援助を提供するべきだと改めて実感することができました。

会場の外には、B級グルメの津山ホルモンうどんが店出されていましたが、人気の為に食べることが出来ませんでした。しかし同じB級グルメのデミカツ丼というデミグラスソースのかかったカツ丼を食し、岡山城や日本三大庭園の1つなど歴史を堪能し心身共にリフレッシュしてきました。

今回の経験をバネに知識・技術・態度を再構築し、次回の機会にチャレンジ出来るように今後ともスタッフと協力して行きたいです。



## 新型MRI装置を導入しました

放射線科技師長 松崎 宏

NHO 宇都宮病院は、最新鋭の 1.5 テスラ核磁気共鳴画像診断装置 (MRI) を導入し平成 24 年 1 月 5 日から稼働させています。17 年間使用した旧装置と比較すると格段に性能が向上しております。



旧型 0.2 テスラ装置 (日立製)



新型 1.5 テスラ装置 (フィリップス製)

### 新型MRI装置の特徴

- これまで 40 ～ 60 分かかっていた検査時間が 20 ～ 30 分に短縮できるため患者様の負担が大幅に減少します。
- これまで制限のあった脳や腹部の撮影にも対応でき、全診療科に適応した全身検査が可能になりました。
- 従来の 7.5 倍の磁場強度を有しており、鮮明で詳細な画像が得られるため、より細かな病変まで診断可能になりました。
- 造影剤の注射をせずに全身の血管の撮影が出来るようになりました。
- その他にも最新の撮像法が行えるようになりました。

まだ導入されたばかりで、撮影に習熟するまでは何かとご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、迅速に適切な画像を提供できるよう努力してゆきたいと思っております。

## 福島第一原発事故に伴う住民の一時帰宅における医療班派遣

消化器科医長 眞島 雄一

平成 23 年 11 月 16 日、17 日の 2 日間、福島第一原発の 20km 圏内に自宅がある住民の一時帰宅の支援として、中継基地のある広野町中央体育館・公民館に行っていました。

対象は大熊町、二葉町の 655 世帯、約 1560 人でした。特に今回初めて 3km 圏内への一時帰宅も行われ、多数の報道関係者も取材に訪れていました。

医療班の支援内容は、一時帰宅者に生じた不慮の傷病の対応と、万一の高線量被爆時の対応です。幸い今回の活動中、高濃度被爆者はおられず (これまで 1 度もない)、ごく軽微な訴えの方が 2 名受診されただけでした。

活動地の広野町中央体育館・公民館は 20km 圏内のすぐ外にあり、隣の広野町役場、広野小中学校はいわき市内の仮庁舎・校舎に移転しており、周辺は閑散としていました。公民館の事務室に残されたカレンダーや行事予定のホワイトボードなどは 3 月のまま時間が止まったまのように思われ、地震と原発事故によって奪われた日常生活を取り戻す「復興」は、まだまだ遠いものと感じられました。原発事故のより早い終息と地域の方々の安全な生活を保障される日が一日も早く来ることを願うばかりです。

われわれ医療班として派遣されたものができることはそれほど多くないと思われませんが、少しでも地域のかたがたの役に立てるのであれば、今後もぜひ協力したいと考えています。



当院の医療班

左から 眞島消化器科医長、塩澤看護師長、澁澤係長



診察の様子



## クリスマスコンサートに寄せて

西1病棟 看護師長 上武直美

昨年4月に転勤してきた私にとって、宇都宮病院のクリスマスコンサートへの参加は初めてのことでした。手作りで温かみのあるイベントがこの病院の特徴と聞いていたので、どんなコンサートになるのかと楽しみにしていました。

ポスターを持って各病室を廻りコンサートへのお誘いをしていると、患者様から「あら、去年もこの時期に入院していたから参加させて頂いたのよ。楽しかったわ。今年は何をするの?」と楽しみにして下さいました。患者様の声を聞いている内に、私の方が誘われた感じとなり益々楽しみになりました。

開演時間となり、病棟の一人の患者様と共にコンサート会場に向かいました。重症心身障害者の方々や小児科の子供達、他病棟の入院患者様で会場の玄関前ホールはいっぱいになりました。

院内の各職場から集まった職員のバンドやウクレレの演奏では「上を向いてあるこう」やクリスマスソングを多くの患者様が一緒に歌い、手拍子をして取り楽しみました。ボランティアの方によるフラメンコは、迫力のある歌、踊り、ギターと美しい衣装に目が離せませんでした。力強い踊りに励まされ、クリスマスソングに癒された夜となりました。患者様から、「フラメンコを見るのは初めてでした。感動しました。入院生活は大変だけど、入院していなかったらこんな経験出来なかったからとても良かった。」などと言って頂きました。

このような素敵なイベントで楽しい一時を過ごして頂いた事とても嬉しく思います。



## 重症心身障害病棟クリスマス会



療育指導室 保育士 出井美雪

♪ジングルベル♪ジングルベル♪鈴が鳴る～♪サンタとトナカイに出迎えられ、12月14日(水)岡本特別支援学校体育館にて、重症心身障害病棟クリスマス会が開催されました。利用者、ご家族、学校教諭、ボランティア、職員、皆さんの参加協力があり、一日クリスマスの雰囲気一杯に酔いしれ、楽しいひと時を過ごしました。

今年も、各病棟、学校から楽しい余興が披露されました。西5病棟からは「黄門バカボン珍道中」と題し、黄門様をはじめ、お馴染みの助さん、角さんが大活躍!と思いきやバカボンやウナギ犬まで出てきて大盛り上がり。パニーガールに扮したご家族は、AKB48の「ヘビーローテーション」で綺麗な美脚を披露して下さいました。西6病棟では、マツケンサンバからパワーアップ!「マツケンマハラジャ」でスタートし、KARAのヒップダンス「Mr.」「マルモのおきて」からは友樹と薫も出てきて「マルマル・モリモリ」を皆で一緒に踊りました。午後の部のイベントでは、「静林・ベルフレンズ」という、ハンドベルを演奏するボランティアをお招きしました。重なり合って奏でるメロディーはまさに天使のハーモニー!クリスマスならではの曲に合わせ、素敵なベルの音色を楽しみました。

あっという間に楽しい時間も過ぎ、クリスマス会も無事終了。今年の締めくりにふさわしい会でした。来年は何がでてるかお楽しみに…。



### 編集後記

明けましておめでとうございます。新年に入り寒さもうっそう厳しくなってきました。朝出勤途中で草木や落ち葉に霜が降り白くなっているのを目にします。道を少し外れて落ち葉の上を歩くとカサカサと音を出し楽しい気分になります。木々の間からは朝日が差し込みきらきら輝きとてもきれいです。病院の周りには1km程の散歩コースがあり、時折、犬の散歩をしている近所の方とすれ違い挨拶を交わします。皆さんもこのすばらしい景色を堪能しながら歩いてみてはいかがでしょうか。

副看護部長 霜田 ゆきえ



【梅(足利市 西深園で撮影)】

表紙撮影：渡部孝夫(放射線撮影透視主任)

# 外来診療担当医表

(平成 24年 1月 1日現在)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合診療科(初診)						
内科		沼尾 利郎/ 吉川弥須子	山崎龍太郎	眞塩 一樹	田坂登司博/ 沼尾 利郎	崎尾 浩由
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	森 豊	太田 怜	佐藤 稔	鈴木 國弘
	午後	佐藤 稔	太田 怜		佐藤 稔	
神経内科	午前	伊藤 雅史			高嶋良太郎	
	午後	伊藤 雅史			高嶋良太郎	
消化器内科	午前	坪内美佐子	菅谷 洋子	稲葉 直也	眞島 雄一	菅谷 洋子
	午後	坪内美佐子	菅谷 洋子			菅谷 洋子
循環器内科	午前		伊藤 致	阿部 力		
	午後	西野 節	伊藤 致	阿部 力		
呼吸器科	午前	安西真紀子	沼尾 利郎	田坂登司博	野村 由至	吉川弥須子
	午後	安西真紀子	沼尾 利郎/ 山崎龍太郎	田坂登司博	野村 由至	吉川弥須子/ 崎尾 浩由
腎臓内科	午後				岡田和久(2・4週) [予約制]	
小児科	午後		影山さち子 (予防接種) [予約制]		影山さち子 子供養育相談ルーム [予約制](第2・4)	
小児神経外来	午後	奥野 章(3週) [予約制]				
外科	1 診	増田 典弘	伊藤 知和	滝田 純子	増田 典弘	伊藤 知和
	2 診	伊藤 知和	大塚 吉郎	増田 典弘	山口 悟	熊倉 裕二
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶藪 昌明 (初診のみ)	熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)	茶藪(第1・3・5週) 石川(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	加藤 基樹		加藤(第1・5週) 茶藪(第2・4週) 熊谷(第3週)		加藤 基樹
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藪 昌明	茶藪 昌明	熊谷 吉夫
装具外来	田中 孝昭					熊谷 吉夫
歯科(入院患者のみ)			渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
禁煙外来(保険外)(午後・予約制)						沼尾 利郎
眼科(午後・予約制)						松原 忠之/ 永田万由美/ 和泉田真作
皮膚科(午後・予約制)		小田佐智子				
耳鼻咽喉科(午後・予約制)	久保木章仁					

## 外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00迄です。  
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科・物忘れ外来・禁煙外来は、地域医療連携室にて電話予約を受け付けています。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374 (直通) FAX 028-673-1961 (直通)  
担当(ソーシャルワーカー): 永山悦子・宇梶多恵(内線133)



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

http://www.hosp.go.jp/~utsuno/